

一 投資、融資及自營事業資金ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資、融資及自營事業資金ノ總額中社債收入金（社債前借金ヲ含ム以下同ジ）ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第一項ノ投資融資及自營事業ニ因ル收入、投資融資及自營事業資金ノ總額竝ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 中支那振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ

者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第七章 罰則

第二十九條 中支那振興株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中支那振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セ

シム

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的タル金錢以外ノ財産ノ

價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控

除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十四條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號

及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十五條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

第三十六條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第三十七條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ中支那振興株式會社總裁ニ引

渡スベシ

第三十九條 政府ハ中支那振興株式會社ニ對スル出資ノ目的ニ充ツル爲帝國鐵道特別會計ヨリ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

中支那振興株式會社法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

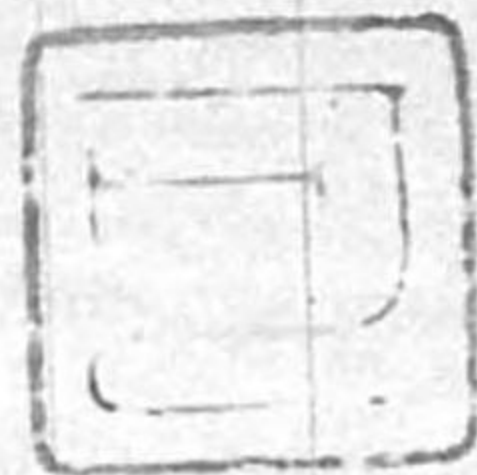
昭和十三年三月二十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

貴族院
議決



中支那振興株式會社法案帝國議會

提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十三年三月十七日

內閣總理大臣公爵近衛文麿



日

月

閣甲 四五

昭和十三年三月十七日裁可

昭和十三年三月十五日

内閣書記官長



内閣書記官



内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

逓信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

興

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

中支那振興株式會社法案起案上申
ス依テ別紙ノ通閣議決定帝國議會
ニ提出セラレ可然ト認ム

法制局

中支那振興株式會社法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十三年三月十七日 衆へ

内閣總理大臣

外務大臣

大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

法務司

中支那振興株式會社法

第一章 總則

第一條 中支那振興株式會社ハ中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助

成スルヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ上海ニ置ク

第二條 中支那振興株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受

ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 政府ハ五千萬圓ヲ限り中支那振興株式會社ニ出資スベシ

政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニス

ルコトヲ得

第四條 中支那振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第五條 中支那振興株式會社ノ株式ハ記名式トス

第六條 中支那振興株式會社ニ非ザルモノハ中支那振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第七條 中支那振興株式會社ノ定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二章 役員

第八條 中支那振興株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ中支那振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ中支那振興株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス
理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ

従事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラ

ズ

第十三章 業務

第十二條 中支那振興株式會社ハ左ノ事業ニ對シテ投資又ハ融資ヲ爲

スモノトス

一 交通及運輸ニ關スル事業

二 通信ニ關スル事業

三 電氣、瓦斯及水道ニ關スル事業

四 鑛産ニ關スル事業

(日本標準規格B4列) (木村納)

五 水産ニ關スル事業

六 前各號ノ外中支那ニ於ケル公共ノ利益又ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル事業

特殊ノ事情アル場合ニ於テハ中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項各號ニ掲グル事業ヲ自ラ經營スルコトヲ得

第四章 中支振興債券

第十三條 中支那振興株式會社ハ拂込株金額ノ五倍ヲ限り中支振興債券ヲ發行スルコトヲ得

中支那振興株式會社ハ中支振興債券借換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ中支振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内

ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊中支振興債券ヲ償還スベシ

中支振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十四條 中支振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ中支振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 中支振興債券ノ所有者ハ中支那振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第五章 準備金

第十七條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 政府ノ監督及助成

第十八條 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十九條 中支那振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條 中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利

益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ノ投資及融資並ニ自營事業ノ計畫ヲ定メ事業開始一月前迄ニ之ヲ政府ニ提出シ認可ヲ受クベシ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦同ジ

第二十三條 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上、國防上又ハ中支那ニ於ケル公共ノ利益若ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國

(日本標準規格B4列) (木村納)

議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要

第二十四條 政府ハ中支那振興株式會社監理官ヲ置キ中支那振興株式

會社ノ業務ヲ監視セシム

中支那振興株式會社監理官ハ何時ニテモ中支那振興株式會社ノ金庫

帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

中支那振興株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ中支那

振興株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシム

ルコトヲ得

中支那振興株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ

意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ中支那振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十七條 中支那振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資、融資及自營事業ニ因ル收入ノ投資、融資及自營事業資金ノ總額ニ對スル割

(日本標準規格B4判) (木村納)

合（以下収入割合ト稱ス）ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初
營業年度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得
ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百
分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一 投資、融資及自營事業資金ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株
式ノ拂込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差
ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資、融資及自營事業資金ノ總額中社債收入金（社債前借金ヲ
含ム以下同ジ）ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタ
ル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第一項ノ投資融資及自營事業ニ因ル收入、投資融資及自營事業資金ノ總額竝ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分、計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 中支那振興株式會社、毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過ス

ル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第七章 罰則

第二十九條 中支那振興株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之

ヲ準用ス

附 則

第三十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中支那振興株式會社ノ設立ニ關ス

ル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的
タル金錢以外ノ財産ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出
資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(日本標準規格B4列) (木村納)

第三十三條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府

ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十四條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第二百二十六條

第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十五條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府

ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

第三十六條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滯ナク各株ニ付第

一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ召集スベ

シ

第三十七條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任
ヲ行フベシ

第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ中支那
振興株式會社總裁ニ引渡スベシ

第三十九條 政府ハ中支那振興株式會社ニ對スル出資ノ目的ニ充ツル
爲帝國鐵道特別會計ヨリ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換
ヲ爲スコトヲ得

(日本標準規格B4列) (木村納)

中支那振興株式會社法案理由書

中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助成スル爲中支那振興株式會社ヲ
設立スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

中支那振興株式會社法案

中支那振興株式會社法

第一章 總則

第一條 中支那振興株式會社ハ中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助成スルヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ上海ニ置ク

第二條 中支那振興株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ

得

第三條 政府ハ五千萬圓ヲ限り中支那振興株式會社ニ出資スベシ

政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第四條 中支那振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第五條 中支那振興株式會社ノ株式ハ記名式トス

第六條 中支那振興株式會社ニ非ザルモノハ中支那振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第七條 中支那振興株式會社ノ定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二章 役員

第八條 中支那振興株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ中支那振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ中支那振興株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 業務

第十二條 中支那振興株式會社ハ左ノ事業ニ對シ投資又ハ融資ヲ爲スモノトス

一 交通及運輸ニ關スル事業

二 通信ニ關スル事業

三 電氣、瓦斯及水道ニ關スル事業

四 鑛産ニ關スル事業

五 水産ニ關スル事業

六 前各號ノ外中支那ニ於ケル公共ノ利益又ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル事業

特殊ノ事情アル場合ニ於テハ中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項各號ニ掲ゲル事業ヲ自ラ經營スルコトヲ得

第四章 中支振興債券

第十三條 中支那振興株式會社ハ拂込株金額ノ五倍ヲ限り中支振興債券ヲ發行スルコトヲ

得

中支那振興株式會社ハ中支振興債券借換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ中支振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊中支振興債券ヲ償還スベシ

中支振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十四條 中支振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ
中支振興債

第十五條 政府ハ中支振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 中支振興債券ノ所有者ハ中支那振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己

ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第五章 準備金

第十七條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ

百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツ

シ

第六章 政府ノ監督及助成

第十八條 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十九條 中支那振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼ

ズ

第二十一條 中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ノ投資及融資竝ニ自營事業ノ計畫ヲ定メ事業開始一月前迄ニ之ヲ政府ニ提出シ認可ヲ受クベシ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦

同ジ

第二十三條 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上、國防上又ハ中支那ニ於ケル公共ノ利益若ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ

因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 政府ハ中支那振興株式會社監理官ヲ置キ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監視セシ

ム

中支那振興株式會社監理官ハ何時ニテモ中支那振興株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

中支那振興株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ中支那振興株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

中支那振興株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ中支那振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十七條 中支那振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資、融資及自營事業ニ因ル收入ノ投資、融資及自營事業資金ノ總額ニ對スル割合(以下收入割合ト稱ス)ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一、投資、融資及自營事業資金ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二、投資、融資及自營事業資金ノ總額中社債收入金(社債前借金ヲ含ム以下同ジ)ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

三、毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シテ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第四項ノ投資融資及自營事業ニ因ル收入、投資融資及自營事業資金ノ總額並ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 中支那振興株式會社ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外

者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者
ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過ス
ル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以
外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合
ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第七章 罰則

第二十九條 中支那振興株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處
分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以
下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコ
ト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中支那振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セ

シム

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的タル金錢以外ノ財産ノ

價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控

除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十四條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號

及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十五條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受

クベシ

第三十六條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシム

ベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第三十七條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ中支那振興株式會社總裁ニ引

渡スベシ

第三十九條 政府ハ中支那振興株式會社ニ對スル出資ノ目的ニ充ツル爲帝國鐵道特別會計ヨ

リ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

其中支那振興株式會社法案理由書

中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助成スル爲中支那振興株式會社ヲ設立スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

第三十八條 設立總會

中文振興株式會社組織條例

第三十九條 設立總會

中文振興株式會社組織條例

第四十條 設立總會

中文振興株式會社組織條例

ハシ

第三十六條 設立總會

ハシ

第三十五條 設立總會

第三十四條 設立總會



北支那開發株式會社及中支那振興株式會社
設立ニ關シ兩會社設立委員ニ對シ示達ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十三年五月六日

內閣總理大臣公爵近衛文磨



閣下第一二〇號

案起

昭和十三年五月五日

閣議決定
昭和十三年五月六日施行

昭和十三年五月七日

內閣總理大臣 **友**

內閣書記官長

內閣書記官

外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

遞信大臣

友

厚生大臣

友

內務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

北支那開發株式會社及中支那振興株式會社設立ニ關シ兩會社設立委員ニ對

北支那開發株式會社及中支那振興株式會社
設立委員ニ對スル示達案

北支那開發株式會社及中支那振興株式會社

設立委員長男爵郷

誠之助

外設立委員

北支那開發株式會社及中支那振興株式會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムルニ付左ノ通示達ス

昭和十三年五月 七日

內閣總理大臣

第一條 北支那開發株式會社法及中支那振興株式會社法ノ規定ヲ遵守シ以下各條ニ依リ速ニ兩會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處

理スベシ

第二條 設立委員長及設立委員ヲ以テ委員會ヲ組織シ委員會ノ組織及議事ニ關スル規則並ニ事務處理要綱ヲ定メ之ヲ報告スベシ

第三條 事務所ヲ開設シタルトキハ之ヲ報告シ官報及新聞紙ヲ以テ公告スベシ

第四條 會社ノ定款ノ認可申請書ニハ現物出資ノ價格算定ニ關スル書類ヲ添附スベシ

第五條 株主ノ募集及株式ノ割當ニ際シテハ一般國民ノ株主タル途ヲ拓クト共ニ健實ナル株主ヲ得ルコトヲ主眼トスベシ

株主ノ募集及株式ノ割當ニ關シ決定シタル事項ハ直ニ之ヲ報告スベシ

第六條 創立總會ヲ招集セントスルトキハ其ノ日時場所等ヲ報告スベシ

第七條 創立總會ハ第十條ニ掲グル會社ノ負擔スベキ設立費用ノ金額ヲ議決スベシ

第八條 創立總會ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ顛末ヲ報告スベシ

第九條 會社ニ事務引渡ヲ爲シタルトキハ委員會議事録ノ謄本ヲ添へ直ニ其ノ旨ヲ報告スベシ

第十條 會社設立ニ關スル一切ノ費用ハ會社ノ負擔トス

第十一條 政府ハ北支那開發株式會社ニ在リテハ八七、三五五圓、中支那振興株式會社ニ在リテハ六四、四八〇圓ヲ限り前條ノ費用ヲ支辨ス

政府ニ於テ支辨シタル設立費用ハ會社設立後之ヲ返納スベシ

内
閣

北支那開發株式會社設立諸費豫算

北支那開發株式會社
設立諸費 一四二、三五五、〇〇〇^円

北支那開發株式
會社設立準備費 八七、三五五、〇〇〇

北支那開發株式會社
政府出資財産評價委
員會諸費 五五、〇〇〇、〇〇〇

内
閣

參照

中支那振興株式會社設立諸費豫算

中支那振興株式會社
設立諸費

一〇九、四八〇、〇〇〇^甲

中支那振興株式
會社設立準備費

六四、四八〇、〇〇〇

中支那振興株式會社
政府出資財產評價委
員會諸費

四五、〇〇〇、〇〇〇

內閣

北支那開發株式會社法

(昭和十三年四月三十日
法律第八十一號)

北支那開發株式會社法

第一章 總則

第一條 北支那開發株式會社ハ北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進シ其ノ統合調整ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 北支那開發株式會社ノ資本ハ三億五千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第三條 政府ハ一億七千五百萬圓ヲ限り北支那開發株式會社ニ出資スベシ
政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第四條 北支那開發株式會社ノ株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株金ノ六分ノ一迄下ルコトヲ得

政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ第二回以後ノ株金拂込ニ充ツルコトヲ得

第五條 北支那開發株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第六條 北支那開發株式會社ノ株式ハ記名式トス

第七條 北支那開發株式會社ニ非ザルモノハ北支那開發株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ

其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第八條 北支那開發株式會社ノ定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ

過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二章 役員

第九條 北支那開發株式會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十條 總裁ハ北支那開發株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ副總裁ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ北支那開發株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ北支那開發株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十一條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十二條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但

シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 北支那開發株式會社ニ顧問若干人ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ開陳ス

顧問ハ北支那開發株式會社政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ委囑ス

第三章 業務

四

第十四條 北支那開發株式會社ハ左ノ事業ノ主要ナルモノニ對シ投資又ハ融資ヲ爲シ其ノ經營ヲ統合調整スルモノトス

一 交通、運輸及港灣ニ關スル事業

二 通信ニ關スル事業

三 發送電ニ關スル事業

四 鑛産ニ關スル事業

五 鹽ノ製造、販賣及利用ニ關スル事業

六 前各號ノ外北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進スル爲特ニ統合調整ヲ必要トスル事業

第四章 北支開發債券

第十五條 北支那開發株式會社ハ拂込株金額ノ五倍ヲ限り北支開發債券ヲ發行スルコトヲ

得

北支那開發株式會社ハ北支開發債券借換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ北支開發債券ヲ發行
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊北支開發債
券ヲ償還スベシ

北支開發債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十六條 北支開發債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 政府ハ北支開發債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十八條 北支開發債券ノ所有者ハ北支那開發株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己
ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第五章 準備金

第十九條 北支那開發株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ

五

百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

六

第六章 政府ノ監督及助成

第二十條 政府ハ北支那開發株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條

北支那開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條

定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生

ゼズ

第二十三條

北支那開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十四條

北支那開發株式會社ハ每營業年度ノ投資及融資ノ計畫ヲ定メ事業開始一月前迄ニ之ヲ政府ニ提出シ認可ヲ受クベシ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦同ジ

第二十五條 政府ハ北支那開發株式會社ノ業務ニ關シ監督上、國防上又ハ北支那ニ於ケル經

濟開發ヲ促進シ其ノ統合調整ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ
因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金
額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十六條 政府ハ北支那開發株式會社監理官ヲ置キ北支那開發株式會社ノ業務ヲ監視セシ

ム

北支那開發株式會社監理官ハ何時ニテモ北支那開發株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件
ヲ検査スルコトヲ得

北支那開發株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ北支那開發株式會社ニ命ジテ

業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

八

北支那開發株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十七條 政府ハ北支那開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 北支那開發株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十九條 北支那開發株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資及融資ニ因ル收入ノ投資及融資ノ總額ニ對スル割合(以下收入割合ト稱ス)ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年

度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一 投資及融資ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資及融資ノ總額中社債收入金(社債前借金ヲ含ム以下同ジ)ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第一項ノ投資及融資ニ因ル收入、投資及融資ノ總額並ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株

式ノ拂込金ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定

ム

第三十條 北支那開發株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十一條 北支那開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間北支那開發株式會社

ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第三十三條 北支那開發株式會社ガ設立、資本ノ増加、合併又ハ第二回以後ノ株金拂込ノ登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ拂込株金額、増資拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一トス

第七章 罰則

第三十四條 北支那開發株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第三十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ北支那開發株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的タル金錢以外ノ財産ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十九條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受ク

ベシ

第四十一條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシム

ベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十二條 創立總會ニ於テハ第十一條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北支那開發株式會社總裁ニ引

渡スベシ

第四十四條 政府第四條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財産ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金

拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財産ノ價格ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ

第四十五條 政府ハ北支那開發株式會社ニ對スル出資ノ目的ニ充ツル爲帝國鐵道特別會計ヨ

リ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 登録税法第六條第一項第十一號中「東洋拓殖債券」ノ下ニ「北支開發債券」ヲ加フ

北支那開發株式會社法案理由書

北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進シ其ノ統合調整ヲ圖ル爲北支那開發株式會社ヲ設立スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

中支那振興株式會社法

(昭和十三年四月三十日
法律第八十二號)

中支那振興株式會社法

第一章 總則

第一條 中支那振興株式會社ハ中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助成スルヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ上海ニ置ク

第二條 中支那振興株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 政府ハ五千萬圓ヲ限り中支那振興株式會社ニ出資スベシ

政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第四條 中支那振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第五條 中支那振興株式會社ノ株式ハ記名式トス雖モ其ノ資本ハ株式ノ類ニ非ズ其ノ名稱ヲ以テ

第六條 中支那振興株式會社ニ非ザルモノハ中支那振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ

其ノ商號ト爲ヌコトヲ得ズ

第七條 中支那振興株式會社ノ定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ

過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二章 役員

第八條 中支那振興株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ中支那振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ中支那振興株式會社ノ業務ヲ分掌シ又

ハ之ニ參與ス

監事ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但

シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 業務

第十二條 中支那振興株式會社ハ左ノ事業ニ對シ投資又ハ融資ヲ爲スモノトス

一 交通及運輸ニ關スル事業

二 通信ニ關スル事業

三 電氣、瓦斯及水道ニ關スル事業

四 鑛産ニ關スル事業

四

五 水産ニ關スル事業

六 前各號ノ外中支那ニ於ケル公共ノ利益又ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル事業
特殊ノ事情アル場合ニ於テハ中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項各號ニ掲グル事
業ヲ自ラ經營スルコトヲ得

第四章 中支振興債券

第十三條 中支那振興株式會社ハ拂込株金額ノ五倍ヲ限り中支振興債券ヲ發行スルコトヲ
得

中支那振興株式會社ハ中支振興債券借換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ中支振興債券ヲ發行
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊中支振興債
券ヲ償還スベシ

中支振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十四條 中支振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ中支振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 中支振興債券ノ所有者ハ中支那振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第五章 準備金

第十七條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 政府ノ監督及助成

第十八條 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十九條 中支那振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼ

ズ

第二十一條 中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコト

ヲ得ズ

第二十二條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ノ投資及融資竝ニ自營事業ノ計畫ヲ定メ事業

開始一月前迄ニ之ヲ政府ニ提出シ認可ヲ受クベシ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦

同ジ

第二十三條 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上、國防上又ハ中支那ニ於ケル公

共ノ利益若ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ

因り生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 政府ハ中支那振興株式會社監理官ヲ置キ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監視セシ

ム

中支那振興株式會社監理官ハ何時ニテモ中支那振興株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

中支那振興株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ中支那振興株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

中支那振興株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ中支那振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 中支那振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十七條 中支那振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資、融資及自營事業ニ因ル收入ノ投資、融資及自營事業資金ノ總額ニ對スル割合(以下收入割合ト稱ス)ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一 投資、融資及自營事業資金ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資、融資及自營事業資金ノ總額中社債收入金(社債前借金ヲ含ム以下同ジ)ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ツ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第一項ノ投資融資及自營事業ニ因ル收入、投資融資及自營事業資金ノ總額並ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 中支那振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ

九

者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者
ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過ス
ル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以
外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合
ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第七章 罰則

第三十九條 中支那振興株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處
分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以
下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコ
ト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

其附則

第三十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中支那振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セ

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的タル金錢以外ノ財産ノ

價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控

除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十四條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號

及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十五條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受

クベシ

第三十六條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシム

ベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第三十七條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ中支那振興株式會社總裁ニ引

渡スベシ

第三十九條 政府ハ中支那振興株式會社ニ對スル出資ノ目的ニ充ツル爲帝國鐵道特別會計ヨ

リ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

中支那振興株式會社法案理由書

中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助成スル爲中支那振興株式會社ヲ設立スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ



司甲第九號

案起

昭和十三年三月二十三日

閣議決定 昭和十三年五月十四日施行
裁可 昭和十三年三月十四日行

昭和十三年五月十日

公布

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣

磯田

陸軍大臣

板垣

文部大臣

有田

逓信大臣

柳田

厚生大臣

高橋

内務大臣

香月

海軍大臣

米谷

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

高橋

大藏大臣

興山

司法大臣

高橋

商工大臣

高橋

拓務大臣

高橋

別紙兩院ノ議決ヲ經タル擔保附社債信託法
中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ衆議院



議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル擔保附社債
信託法中改正法律
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

昭和十三年五月九日

内閣總理大臣

大藏大臣

司法大臣

法律第八十三號

(上奏ノ通)

内閣

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル
擔保附社債信託法中改正法律案ノ
裁可ヲ奉請ス

昭和十三年三月二十三日

衆議院議長小山松壽

衆議院書記官長田口弼一

擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第四條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 株式質

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙奏上有之度候也

昭和十三年三月二十三日

衆議院議長 小山松



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

衆議院
完

衆議院大正九年九月廿九日議決案

衆議院書記官長

田口 弼



衆議院書記官長



擔保附社債信託法中改正法律案

帝國議會へ提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十三年三月七日

內閣總理大臣公爵近衛文麿



司甲九

昭和十三年 三月 七日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 齋藤

法制局長官



外務大臣

齋藤

陸軍大臣

畑

文部大臣

有田

逓信大臣

厚生大臣

松本

内務大臣

尾崎

海軍大臣

近衛

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

松本

大藏大臣

興

司法大臣

近衛

商工大臣

近衛

拓務大臣

近衛

別紙大藏司法兩大臣請議擔保附社債信

託法中改正法律案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法 律 案

呈案附箋ノ通

擔保附社債信託法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十三年三月七日 貴

內閣總理大臣

大藏大臣

司法大臣

法制局司第九号 發日

司法省 民事甲第三〇二號

昭和十三年三月四日

主任 根本書記官

司法大臣 鹽野季彦

大藏大臣 賀屋興宣

內閣總理大臣公爵近衛文麿 殿

擔保附社債信託法中改正法律案別紙ノ通第七十三回帝國議會ニ提出
相成度依テ閣議ヲ請フ



司甲九

擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第四條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 株式質

同條、目的ニ左ノ一項ヲ加フ

株式ヲ物上擔保ト爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務

官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附
則

本法公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司
法
省

擔保附社債信託法中改正法律案理由書

我國經濟ノ情勢ニ顧ミ社債金融ノ圓滑ニ資センガ爲株式ヲ擔保トス
ル社債ノ發行ヲ認ムルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

●擔保附社債信託法

明治三十八年三月十三日
法律第五十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル擔保附社債信託法
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、大臣、司)
擔保附社債信託法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保
附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキ
ハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ
信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行為
トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保
ハ左ニ掲グルモノニ限ル

- 一 動産質
- 二 證書アル債權質
- 三 不動産抵當
- 四 船舶抵當
- 五 鐵道抵當
- 六 工場抵當
- 七 鐵業抵當
- 八 軌道抵當
- 九 輕便鐵道抵當
- 十 運河抵當

十 漁業財團抵當

十一 自動車交通事業抵當

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別
ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免
許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得
ス



擔保附社債信託法中改正法律案

擔保附社債信託法中左ノ通改正ス

第四條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 株式質

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

擔保附社債信託法中改正法律案理由書

我國經濟界ノ情勢ニ顧ミ社債金融ノ圓滑ニ資センガ爲株式ヲ擔保トスル社債ノ發行ヲ認ムルノ要
アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

商甲 四九

昭和十三年五月四日

内閣書記官長

内閣書記官

十三
五十七



内閣總理大臣

法制局長官



外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

興

三

三

三

三

三

三

三

三

別紙商工大臣請議昭和十三年法律第三十七號商
業組合法中改正法律施行期日ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

六

去
制
司

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕昭和十三年法律第三十七號商業組合法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年 五月 十三日

内閣總理大臣

商工大臣

呈案附箋ノ通